

両TKA セメント使用クリティカルパス 2

患者 _____ 様 _____ 歳

主治医 _____ 手術日 _____ 月 _____ 日

注意:パスは、ガイドラインです。患者には個人差があり、治療・回復にも影響します。

月 日		帰室時<	>15<	> 30<	> 45<	>	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
バイタル	T	P	R	BP																								
	41	170		200																								
	40	150		150																								
	39	130	30	100																								
	38	110	25	50																								
	37	90	20																									
	36	70	15																									
35	50	10																										
尿量																												
ドレーン量 ディスプレイ																												
リザーバー量																												
ガーゼ汚染																												
疼痛<右R 左L>		R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R	L	R
足趾運動																												
肺雑																												
四肢冷感																												
チアノーゼ																												
吐気 嘔吐																												
足背A触知																												
臨時処置																												
治療 処置 検査		手術室からの点滴残 m < ~ > 1. 回収血 m 返血 { : ~ : } ヴィーンF 500ml+10%トランサミン 1A ml/hr < ~ > 2. 回収血 m 返血 { : ~ : } ST 3 500ml +レプチラーゼS 1A ml/hr < ~ > 回収処理後吸引オフ AVインパレス装着 酸素 リットル (~) 患部クーリング 回収処理後 ベットの高さを上げる オーソパットシステムの高さを下げる																										
抗生剤< >																												
EPI ml/hr																												
安静度		ベット上安静																										
説明・指導		深呼吸指導 足趾運動指導 術後家人へ結果説明																										
アウトカム		3・呼吸 循環状態が安定している 5・足部運動の必要性が理解できる 7・鎮痛剤の投与にて創痛のコントロールができる 4・異常出血が無い 6・塞栓症状が無い 8・麻痺が無い<腓骨神経麻痺、EPIによる知覚鈍麻>																										
看護特記事項																												
ヴァリアンスサイン																												

G汚染 -:なし +:あり
 疼痛 -:なし +:あり
 肺雑 -:なし +:あり
 足趾運動 -:なし +:あり
 四肢冷感 -:なし +:あり
 嘔気嘔吐 -:なし +:あり
 足背A触知 -:なし +:あり

・朝6時以降はシートNO3へ移行する
 ・EPI記載は各勤務最終に
 残量記載する
 また、補充時記載する
 ・アウトカムはA勤務で評価する

両TKAセメント使用クリティカルパス 3

患者 様 歳

注意:パスは、ガイドラインです。患者には個人差があり、治療・回復にも影響します。 歩行器 杖歩行開始は 必ず理学療法士の指示に従って下さい

				OP後1日目				OP後2日目				OP後3日目				OP後4日目				検温×2検		血圧×P		
				月		日		月		日		月		日		月		日		月		日		
バイタル	T	P	R	BP																				
	41	170		200																				
	40	150		150																				
	39	130	30	100																				
	38	110	25	50																				
	37	90	20																					
	36	70	15																					
35	50	10																						
				Fr/	ml /	ドレーン	ml	Fr/	ml /	ドレーン	ml	Fr/	ml											
尿量																								
オーソパット<ディスプレイ> <リザーバー>																								
G汚染																								
疼痛				R	L	IR	L	R	L	IR	L	R	L	IR	L	R	L	IR	L	R	L	IR	L	
膝腫脹																								
足趾運動																								
足背A触知																								
膝熱感																								
嘔気																								
腓腹部痛																								
皮膚色素沈着																								
創発赤																								
臨時処置																								
治療 検査 処置				ヴィーンF 500ml ml/h (~) ST3 500ml ml/h (~) 自己血返血 回診時ドレーン吸引再開 CBC G.EPI包交 弾性包帯巻き替え(足背より) 抗凝固剤内服再開 バルーン消毒 褥創予防ケアパス評価				運動靴確認 G.EPI包交 バルーン消毒 弾性包帯巻き替え(足背より)				Avインバレス除去 ドレーン抜去 EPI包交 バルーン消毒 運動靴確認 弾性包帯巻き替え(足背より)				CBC CRP 生化学尿 G交換 EPI包交 バルーン抜去 弾性包帯巻き替え(足背より)								
患部クーリング																								
抗生剤< >																止				抗生剤内服< > 5日のみきり止				
EPI ml/hr																								
安静度 車椅子可																								
食事				朝5分 昼軟B /				常食 / /				/ / 止												
清潔				MC BB EC				MC BB EC				MC BB EC				MC BB HS EC								
説明 指導				自力体位変換 足部の運動の必要性				自力座位 端座位				車椅子作動方法				車椅子トイレ使用方法								
アウトカム				6・肺塞栓症が無い 7・下肢静脈血栓症状が無い 8・疼痛剤の投与にて創痛のコントロールが出来る 9・麻痺が無い 10・創状態に異常が無い 11・ベットUP座位が出来る 12・血液データが異常無い(Hb W) 13・嘔気が無く、食事1/2を摂取できる 14・褥創発赤が無い 15・ブレードスケールが14点以上である				6・肺塞栓症が無い 7・下肢静脈血栓症状が無い 8・疼痛剤の投与にて創痛のコントロールできる 9・麻痺が無い 10・創状態に異常が無い 16・ドレーン排液が分離し、100ml である 17・自力座位が出来る 18・嘔気が無く、食事を2/3以上摂取できる 14・褥創が発生が無い				6・肺塞栓症が無い 7・下肢静脈血栓症状が無い 19・T38 が無い 10 創部に異常が無い 20・ドレーンが抜去できる 21・車椅子乗車できる(介助でも可) 22・起立性低血圧が無い 23・離床時の創痛コントロール出来る 24・常食を2/3以上摂取出来る 14・褥創が無い				6・肺塞栓症が無い 7・下肢静脈血栓症状が無い 12・血液データ異常が無い W Hb CRP 尿細菌 25・車椅子に自力乗車できる 10・創部に異常が無い 25・T38 である 26・バルーン抜去し自尿がある 23・離床時の創痛コントロール出来る 27・褥創予防パスを終了できる								
看護特記事項																								
CPM <実測より開始> 理学療法士記載欄				屈曲 伸展 /				屈曲 伸展 /				屈曲 伸展 / 平行棒・歩行器				屈曲 伸展 / 平行棒・歩行器								
OP後1日目より開始																								
ヴァリانس				有 無 有 無				有 無 有 無 有 無				有 無 有 無 有 無				有 無 有 無 有 無								
サイン				D: F:				A: D: F:				A: D: F:				A: D: F:								

両TKAセメント使用クリティカルパス 4


患者 様

歩行器 杖歩行開始は必ず理学療法士の指示に従って下さい

				OP後5日目	検温×14時 血压×14時		OP後6日目	OP後7日目	OP後8日目	OP後9日目	OP後10日目	OP後11日目			
				月	日	月	日	月	日	月	日	月	日		
バイタル	T	P	R	BP											
	41	170		200											
	40	150		150											
	39	130	30	100											
	38	110	25	50											
	37	90	20												
	36	70	15												
35	50	10													
尿 便回数				/		/		/		/		/			
疼痛				R	L	R	L	R	L	R	L	R	L		
膝～下腿腫脹															
足趾運動															
膝熱感															
腓腹部痛															
G汚染															
足背A触知															
皮膚色素沈着															
臨時処置															
治療 検査 処置				EPI 抜去 バルーン 抜去											
患部クリーニング				弾性包帯巻き替え		弾性包帯巻き替え		G交換 弾性包帯巻き替え		弾性包帯巻き替え		G交換 弾性包帯巻き替え			
EPI				ml/ hr											
安静度															
清潔				MC	BB	EC	MC	BB	BB	BB	BB	BB	BB		
説明 指導															
アウトカム				6・ 肺塞栓症が無い 7・ 静脈血栓症状が無い 28・ EPI抜去後の創痛 コントロールができる 30・ 安定した車椅子移動が出来る 29・ 立位 起立ができる 26・ バルーン抜去し自尿がある		6・ 肺塞栓症が無い 7 静脈血栓症状が無い 23・ 離床時の創痛コントロール ができる 32・ 自力で車椅子移動が できる 31・ 洗面所で洗面をすることが できる 29・ 立位 起立ができる		6・ 肺塞栓症が無い 7 静脈血栓症状が無い 33・ 離床時の疼痛 コントロールができる 32・ 自力で車椅子移動が できる 31・ 洗面所で洗面をすることが できる 9・ 創部に異常が無い		33・ 離床時の疼痛 コントロールができる 32・ 自力で車椅子移動が できる 9・ 創部に異常が無い		中間目標 ・ 創部に異常がない ・ 病棟内歩行器歩行 ができる ・ 疼痛がコントロールできる 34・ 疼痛がコントロール できる 35・ 安定した歩行器歩行が 出来る 9・ 創部に異常が無い			
看護特記事項															
CPM [実測より開始]				/		/		/		/		/			
理学療法士記載欄				屈曲 伸展 平行棒・歩行器・1本杖・独歩		屈曲 伸展 平行棒・歩行器・1本杖・独歩		屈曲 伸展 平行棒・歩行器・1本杖・独歩		屈曲 伸展 平行棒・歩行器・1本杖・独歩 <翌日> 歩行器可・不可		屈曲 伸展 平行棒・歩行器・1本杖・独歩			
バリアンス				有	無	有	無	有	無	有	無	有	無		
サイン				A:	D:	F:	A:	D:	F:	A:	D:	F:	A:	D:	F:




人工両膝関節〔セメント使用〕入院治療計画書

様

日付												
経過	術前処置・準備	当日	術後1日目	術後2日目	術後3日目	術後4日目	術後5日目	術後6日目	術後10日目	術後2週目	17日目	
食事	常食または治療食です	前日の21時より絶食となります	朝は5分粥、昼から全粥になります	手術前の食事にもどります								
患者様チェック欄		食事 水分止めが理解できていますか？ < >	吐き気無く、半分以上食事できていますか？ < >	手術前の食事を2/3以上食べれましたか < >	手術前の食事を2/3以上食べれましたか < >							
投薬と点滴	抗生剤の皮内テストをします 手術前夜に安定剤を飲みます	手術前から翌日まで点滴をします	朝、夕点滴と抗生剤の点滴をします 自己血を返血します	朝と夕に抗生剤の点滴をします				点滴の代わりに化膿止めの内服が出ます 〔1日3回5日間、食後に服用します〕				
安静度	 安静度自由	術後から翌朝までは起き上がる事ができません	自力座位ができます 膝を曲げる機械を1日1回かけます						膝はどの位曲がりますか？ 右 ° 左 °	病棟内歩行器歩行開始です	膝を曲げる機械終了します	病棟内杖歩行開始になります
患者様チェック欄			ベットを挙げて座る事が出来たか？< >	自力で座る事が出来たか？< >	車椅子に乗車出来ましたか？< >	1人で車椅子移動出来ましたか？< >	1人で立つことができますか？< >	1人で車椅子移動出来ましたか？< >	病棟内歩行器歩行出来ていますか？< >	膝は100度以上曲がりますか？< >	病棟内杖で歩けますか？< >	
リハビリ	術前よりリハビリがあります	杖、運動靴が無い方は用意して下さい 用意できましたか？< >	リハビリ再開になります〔ベット上〕									
患者様チェック欄					理学療法室にて練習開始となります		歩行練習 できましたか？< >	歩行練習 できましたか？< >	杖歩行開始になります 杖歩行できましたか？< >			
検査	採血、心電図、肺機能レントゲンなどの検査があります						血液と 検尿検査 があります				膝のレントゲン写真をとります	
清潔	入浴可 術前に入浴しましたか？〔 〕	抜糸するまで入浴できません 毎日体を拭きます	体を拭きます				洗面所にて洗髪をします 洗髪しましたか？〔 〕	体を拭きます	洗面は洗面所に行って出来ていますか？< >	洗面は洗面所に行って出来ていますか？< >	体を拭きます	傷の状態がよければシャワー浴ができます シャワー浴できましたか？〔 〕
処置	検温4回、血圧2回、うがい、尿を貯めます 禁煙して下さい 出来ていますか？〔 〕	7時に浣腸をかけます。 手術中に尿の管が入ります	ガーゼ交換をします 痛み止めの管は毎日消毒します				創部に入っている管を抜きます	ガーゼ交換をします 6、14時に検温、14時に血圧測定をします	痛み止めの管をぬきます	ガーゼ交換を2、3日に1回します 検温は14時1回となります	抜糸をします 抜糸をしてもらいましたか？〔 〕	抜糸後の傷の診察をします 創に問題はありましたか？〔 〕
説明、指導	主治医より、ご家族に手術の説明があります 理解できましたか？< >	手術後家族の方に医師より説明があります	背中に5日間痛み止めの管がはいります				車椅子でトイレに移動出来れば尿の管を抜きます	尿管を抜くことが出来たか？〔 〕	尿管を抜くことが出来たか？〔 〕		診断書、証明書が必要な方は早めに提出お願いします	日常生活注意点について説明します
患者様チェック欄							今の痛みは10段階でどの位ですか？ 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10	<>はできたかどうか自己チェックする欄です	<>の中に○ ×で評価しましょう			日常生活注意点について理解できましたか？〔 〕

人工両膝関節〔セメント使用〕入院治療計画書

様

日付	
経過	術後3週目
食事	
患者様チェック欄	
投薬と点滴	
安静度	
患者様チェック欄	
リハビリ 患者様チェック欄	 階段昇り降り できましたか？ < >
検査	
清潔 患者様チェック欄	 身の周りの事は 自分で出来ますか { }
処置 患者様チェック欄	
説明、指導 患者様チェック欄	 経過が良好であれば 退院できます
患者様チェック欄	 自宅の受け入れはでき ていますか？ { }

函館五稜郭病院 整形病棟